

図書館展示計画委員会報告

平成13年度は、春季および秋季の2回特別展を開催した。

春季特別展

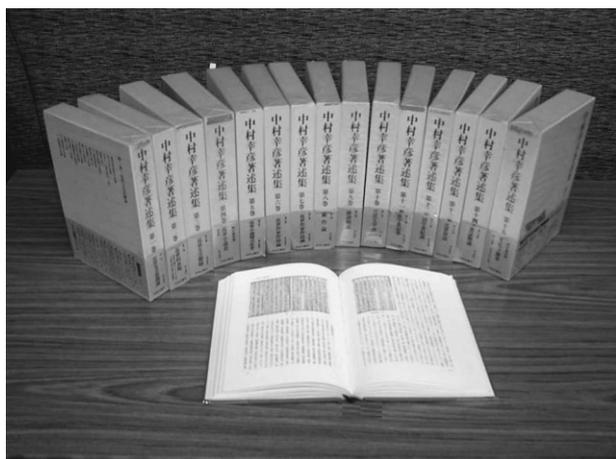
「中村幸彦先生を偲んで」

平成13年4月1日(日)～5月20日(日)

日本近世文学の泰斗、中村幸彦先生は、1911(明治44)年7月、兵庫県洲本市に生まれ、京都帝国大学文学部を卒業後、天理図書館司書、天理大学教授、九州大学教授、本学文学部教授を歴任し、昭和48年から51年まで本学図書館長の任にあり、総合図書館建設の基本構想に着手して、その実現の端緒を切られた。退職後は郷里の淡路島に腰をすえ、1998(平成10)年5月に長逝なさるまで、刻苦勉勵の生涯をつらぬかれた。

本学に収められた「中村幸彦文庫」は、この一代の篤学者が生前に蒐集された貴重な資料(和漢籍及び洋装本)に加えて、各種手沢本、自筆ノートなど多数にのぼり、その文業の大概は『中村幸彦著述集』全15巻(中央公論社)として屹立している。

今回の展示ではその膨大な点数にわたる資料の中から、中村幸彦先生の偉業を代表する著作や自筆ノートなどを含め貴重な資料を展示した。



手沢本『中村幸彦著述集』

秋季特別展

「伊勢物語 - 注釈と享受の世界 - 」

平成13年11月7日(水)～12月15日(土)

記念講演会

演題 「中世の『伊勢物語』享受 - 関大図書館本を中心に - 」

講師 文学部教授 片桐 洋一

日時 11月27日(火) 14:40～16:10

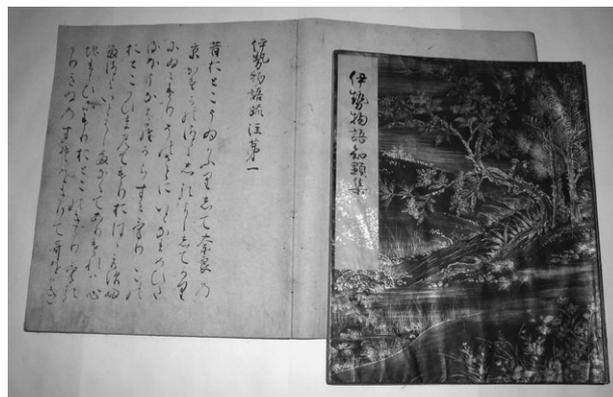
会場 総合図書館3階 図書館ホール

「伊勢物語」は、在原業平の和歌を中心にして形成された歌物語である。その原初形態は業平自身の執筆と考えられているが、業平より後の時代の人々が作った和歌による物語もかなり多く含まれており、業平没後、百年ほどの間に少しずつ補訂され、現在の形になったと推定されている。

その後も、平安時代から江戸時代にかけて様々な注釈書が発刊され、また、浄瑠璃、謡曲にも取り入れられるなど、伊勢物語の世界は、現在にいたるまでの数百年に渡って広がりを見せるとともに、末長く人々に享受されてきた。

今回の展示では、伊勢物語が、長い間人々に読み継がれ、享受されてきた歴史を、あらたに本学図書館蔵書となった「伊勢物語知頭集」をはじめとする注釈書や写本、絵入り版本、浄瑠璃や謡曲の世界によってたどろうとしたものである。

なお、記念講演会では文学部の片桐洋一先生を講師に迎え、図書館ホールの定員を大きく超える120人以上の来聴者が参加の中、関西大学図書館所蔵「伊勢物語知頭集」の特色などについて貴重なお話を講じていただいた。



『伊勢物語知頭集』全5冊